

ラーニングコモンズに関する一考察

大学図書館に関する建築計画的基礎研究

A consideration of the "Learning Commons"

A basic study on architectual planning of University Libraries

○五十嵐勇里^{*1}渡辺富雄^{*2}

Yuri Igarashi

Tomio Watanabe

By the 21st Century, digitization has progressed rapidly, the planning of the University Library has been changing.

In this report, we have investigated the characteristics of the facility and their contents of the spaces which are called "Learning Commons" or "Information Commons". We investigated new six University Libraries which are located in the metropolitan area. We introduced to the University Library three of them.

Keywords : Learning Commons, Information Commons, Information Society, University Library

1. はじめに

21 世紀に入り、急速に進化した電子化に伴い図書館のあり方が変化してきている。電子書籍が急速に増大し、それらを読む為の媒体 (kindle, ipad 等) により、人々にとって電子書籍が遠い存在ではなくなっている。また電子書籍の市場は、ここ十年間において、急激に市場拡大をしている。

大学図書館の利用者はデジタル世代となり、資料の購入、管理、提供が大学図書館の本質的機能ではなくなっている。

そうした中で、インフォメーションコモンズ (注1)、ラーニングコモンズ (注2) という機能が求められ、北米の図書館において先駆的事例 (注3) が見られるようになってきた。日本においては、ラーニングコモンズの前段階である、インフォメーションコモンズの成立が不十分であり、他国におけるラーニングコモンズとは少し状況が異なる形で変化している。

2. 調査目的・方法・対象

日本の大学における大学図書館のラーニングコモンズを設置している事例研究を行う事で、今後の大学図書館の展開について考察を行う。図書館におけるラーニングコモンズは今後の大学図書館のあり方に重要な役割を担ってくると考えられる。

調査方法はラーニングコモンズがある大学図書館のパンフレットと HP でその基礎資料を集め、現地調査を行った。

事例調査は「学び空間が大学を変える」(参考文献 1) に掲載されている表 1 の 9 施設とした。そのうち、日本の大学図書館において、ラーニングコモンズの先駆

けである、成蹊大学、お茶の水女子大学、東京大学の図書館について事例調査を行った。

3. 事例調査

ラーニングコモンズの設置に関して、2008 年にマクマランが OECD の報告書「米国の大学図書館: 今日のラーニングコモンズモデル」(参考文献 14) における構成要素を参考にした。報告書による構成要素は、1) コンピュータ、ワークステーション、クラスター 2) サービスマスク 3) 共同学習スペース 4) プレゼンテーション支援センター 5) 職能開発のためのインストラクションテクノロジーセンター 6) 電子教室 7) ライティングセンター 8) ミーティング・セミナー・プログラムスペース 9) カフェ、ラウンジの 9 項目である。以上 9 項目を参考にしラーニングコモンズを各大学ごとに調査を行った。

3-1. 成蹊大学図書館

成蹊大学 100 周年を記念して 2006 年に建設された。21 世紀の国際化、情報化社会に対応した「知の拠点」としての役割を持つ様に構想されている。知の拠点として地下には 55 万冊収容可能な自動書庫がある。

中央のアトリウムを中心として両サイドに書架が並ぶ形態である。アトリウム部分の 1 階には飲食が可能なりフレッシュエリアやパブリックエリア (グループスペース) が確保されている。アトリウム上部にはプラネットと呼ばれるグループ学習室がある。こうした、従来の図書館とは異なる利用を目的としたスペースが多く確保されている一方で個人の閲覧、学習の為の個別の閲覧室も設置されている。ここでは、イン

表 1. 調査対象館の基礎データ

	学生数 (人)	大学院 生数 (人)	蔵書数 (万冊)	延べ床面積 (㎡)	ラーニングコ モンズ面積 (㎡)	ラーニングコ モンズ設置階	LAN	座席総数	個人座席数	PC 台数	TA	設置年	所在地
成蹊大学情報	8,186	279	122	12,613	4,120	1-5F	○	606	266/606	167		2006	武蔵野市
お茶の水女子大学	3,346	1032	114	4,553	930	1-2F	○	294	64/294	72	○	2007	文京区
東京大学柏	-	-	35.6	5,023	1,430	1-2F	○	243	7/243	40	○	2006	柏市
法政大学	37,200	2007	159	14,946	400	2F	○	1050	140/1050	35	○	2010	千代田区
上智大学中央	11,964	1454	100	18,141	300	B1	○	1900	-/-	39	○	2009	千代田区
東京女子大学	4339	99	44.8	5,762	680	1-2F	○	-	-/-	50	○	2008	杉並区

多摩美術大学、神田外語大学、慶応大学については今後調査を行う

※ 1: 日大理工・院 (前)・建築

Graduate Student, Dept. of Arch., CST., Nihon Univ.

※ 2: 日大理工・教員・建築

Associate Prof., Dept. of Arch., CST., Nihon Univ.

ターネットへの接続等の設備が整っており、利用者は自分の PC を持ち込みレポートの作成などの学習が行えるように配慮されている。

ラーニングcommonsは各フロアの中央に、垂直、水平方向に構成されている。

3-2. お茶の水女子大学図書館

内部がリニューアルされ、主にPCスペースのグループ学習スペースなどが拡張された、約70台のPCが設置してあり、学生はレポートの作成、電子書籍の閲覧などを行う事が出来る。グループ学習スペースでは飲食を行いながら学習が出来る自由度の高い空間となっている。また、ここでは東京女子大学図書館と同様に学生自ら図書館の運営に関わっている。グループ学習スペースの脇に主に大学院生が在駐し、論文の書き方・資料の探し方など様々な質問を行えるアシスタント制度があるところに特徴がある。

ここでは、ラーニングcommonsは1Fに水平方向に構成され、閲覧室とフロアを隔てて設置されている。

3-3. 東京大学柏キャンパス図書館

東京大学柏キャンパスの中心的施設の1つである。図書館だけでなく大学院の研究ライブラリーとし

ての役割も担っている。図書館機能である、開架書庫、AVルーム、個別閲覧ブース、自動書庫(100万冊)等の他に、グループ学習室(プレゼンテーションなども可能)、ラーニングサポート室、コミュニティーサロン、メディアホール、レストコーナー、カンファレンスルーム等の機能を付随させている。ラーニングcommonsが普及しはじめた時期の先駆的図書館と言える。

ここでは、メディアホール等のスペースが1Fに、閲覧スペースを2Fに配置し水平方向のみに、配置計画が行われている。






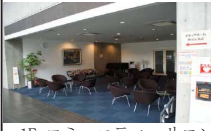

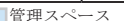

4. まとめ・今後の課題

①いずれの図書館も従来の図書館の機能に加えデジタル機器などの導入、サポートプログラムなどにより、利用者に対して自由度の高い利用法を提供している。

②ラーニングcommonsの配置については、水平方向、垂直方向それぞれに展開している。

今後は、各大学のラーニングcommonsについて、平面計画の考察、運営者へのアンケート、利用者アンケートを行う。

表.2 各大学におけるラーニングcommonsのゾーニング

成蹊大学図書館 (2006)		お茶の水女子大学図書館 (2007)		東京大学柏図書館 (2005)	
ラーニングcommons		ラーニングcommons		ラーニングcommons	
ゾーニング	内観写真	ゾーニング	内観写真	ゾーニング	内観写真
2-5F		2F		2F	
1F		1F		1F	
		  			

注1) Information Commons: 利用者に対して、電子情報源、印刷情報源、各種サービスの統合的アクセスを提供し、専門的な支援を行う情報サービスモデルのこと。

注2) Learning Commons: D. Beagleにより、インフォメーションcommonsにおけるリソースが、アカデミックユニットによって設定された学習目的や、図書館とアカデミックユニットとの共同のプロセスによって

設定された学習成果との関連において組織されている時に、それらをラーニングcommonsと定義されている。

注3) 米国大学図書館協会全国会議 (ACRL) 2005 で取り上げられた、南カリフォルニア大学、コロラド州立大学、ノースカロライナ大学、エロン大学、アリゾナ大学

参考文献

- 1) 山内祐平 (編) 林一雅・望月俊男・西森年寿・河西由美子・椿本弥生・柳澤要: 学び空間が大学を変えるラーニングスタジオ-ラーニングcommons・コミュニケーションスペースの展開: ポイックス: 2010. 5
- 2) 加藤信哉 (編), 小山憲司 (発), 井村寿人: ラーニング・commons-大学図書館の新しいかたち- 勁草書房: 2012. 7
- 3) 岸田省吾: 大学の空間から建築の時空へ: 鹿島出版会: 2012. 3
- 4) 長澤悟 (監): 近代建築 Vol. 63: 近代建築社: 2009. 9
- 5) 近代建築 Vol. 165: 近代建築社: 2011. 12. 5
- 6) 馬場瑛八郎: 建築設計資料 108/ 大学施設-高度化・多様化・市民に開く: 建築資料研究社: 2007. 5
- 7) 馬場瑛八郎: 建築設計資料 97/ 図書館 3-最大の可能性をすべての利用者へ: 建築資料研究社: 2004. 7
- 8) 文部科学省, 平成 15 年度学校建築年報 (国立大学等編): 文教施設協会: 2006. 5
- 9) 田中功: 究極的な大学図書館の地域開放: 日本女子大学図書館 図書館だ

より No134: 2009. 3. 5

- 10) 矢野恵子: 大学図書館の開放を考える-アメリカ・日本の大学図書館を比較して: 図書館事務部総合サービス課嘱託職員
- 11) The Changes in Layout and Zoning System of University Libraries in Japan: Puei Kuen, Cheow, Kazuhiko Nishide: 2010.11.9: Proceedings of the 8th ISAIA, Kitakyushu, Jpan
- 12) 法政大学図書館将来計画: 2011-2015/2011. 4. 1: http://www.hosei.ac.jp/documents/library/shorai/shorai_keikaku2011.pdf
- 13) Beagle, D: The Information Commons Handbook: Neal-schuman Pub: 2006
- 14) From Information Commons to Learning Commons: Voices From the Frontline April 2005 Minneapolis Convention Center 1301 Second Avenue South Minneapolis, Mn.

・成蹊大学図書館 HP <http://www.seikei.ac.jp/university/library/>
 ・お茶の水女子大学図書館 HP <http://www.lib.ocha.ac.jp/>
 ・東京大学柏図書館 HP <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/>